

揺れる海岸線 湘南の海は今

1998. 8神奈川新聞連載記事から

失敗した侵食対策の新工法 (ビーチマネジメントシステム)

- 茅ヶ崎中海岸にデンマークの民間会社が開発した新工法を実験的に設置(1996.5)
- 中海岸の海岸侵食の最大の原因は、茅ヶ崎漁港(1951年から築造)だ(宇多高明, 建設省土木研究所河川部長)
- ヘッドランド築造(1991年完成)
- 養浜対策(1988年から4.2億円)
- 侵食とまらずにBMSの実験開始
- しかし、台風で2年続けて台風で破損して再実験。

2006/5/7

1998.8神奈川新聞「揺れる海岸線 湘南の海は今」

2

柳島は40億円で人工海岸に

- 1960年代には豊かな浜があった(100m以上あったとは三橋卯之助氏, 南湖在住)
- 柳島は、県内で最も侵食が激しいところ(東西400mの砂浜が消失)
- 1960年代に城山ダム、寒川取水堰が完成し、砂利採取と相まって土砂流下が遮断
- 河口に溜まった土砂を沖合いに投棄したため、柳島の砂が河口に逆流
- 1980年代の台風で壊滅的被害
- 県は延長800mの消波堤をつくり、内部に干潟と砂浜を作ることを計画(2007年に完成予定)

2006/5/7

1998.8神奈川新聞「揺れる海岸線 湘南の海は今」

3

消える海浜植物、野鳥

- 1976~96年までの20年間で湘南海岸(鎌倉~二宮)の砂浜が最大約70m消えた(県河口課)。
- ハマヒルガオの減少の原因は、浜口哲一学芸員によると
 - ①侵食による砂浜の減少
 - ②護岸工事などによる群落の荒廃
 - ③多くの人の踏みつけ
- 相模川河口の干潟は5haから1haになった
- ゴカイやカニが激減で、シギ、チドリ類の飛来は3分の1に減り、減少傾向はとまらない。

2006/5/7

1998.8神奈川新聞「揺れる海岸線 湘南の海は今」

4

水質悪化が魚種を変える

- 東京水産大学助手、丸山隆助手が「磯釣りの釣果の変遷から見た相模湾と相模川の現状」を報告
- 平島、烏帽子岩は1980年代にすでに水質悪化が進行し、アワビ、サザエが激減黒鯛が減り、カレイが安定に

2006/5/7

1998.8神奈川新聞「揺れる海岸線 湘南の海は今」

5

水質悪化の原因 その1

- 異変の原因は、流入人口の増加で有機物の排出量が激増
- 川の改修が進み、河川の姿が単調になる
- ダムから排出される有機物が川に留まらず、分解されないままの有機物が河口に沈殿
- 海底が砂から泥質に変化

2006/5/7

1998.8神奈川新聞「揺れる海岸線 湘南の海は今」

6

水質悪化の原因 その2

- 相模川の水の高度利用により、「寒川取水堰の下流での極端な渇水状態のほぼ常態化」
- 相模大堰の建設(当時)は、流量不足を加速させる
- 当局からの反論はまだない(当時)

2006/5/7

1998.8神奈川新聞「揺れる海岸線 湘南の海は今」

7

相模川下流に海水が逆流

- 相模川の流量が貧弱なために、満潮時に海水が逆流し、河川の淡水を駆逐.
- 神川橋(河口から7km上流)でカツオやスズキが釣れる.
- 寒川取水堰の下流の平均年間流量は、昨年が過去十年間で最低毎秒7.7トン、普段は2トン程度(県企業庁, 城山事務所).
- 塩素イオン濃度は、神川橋(河口から7km上流)で2600mg/l(平塚市環境保全課, 1996年).
- ダムのない境川(河口から4.5km)で60mg/l.

2006/5/7

1998.8神奈川新聞「揺れる海岸線 湘南の海は今」

8

相模川河口の航行が危険に

- 相模川の河口の航路で、浅瀬に船が乗り上げる事故が多発
- 「河口部では堆積土砂を押し出す河川流量が少ないために常に水深が浅く・・・宮が瀬ダム完成に伴い堆砂を押し出すダム放流水は期待できない」(平塚市長が県に提出した要望書)
- 河口部の浚渫は年に3から4回で、延べ約1万㎡を2千5百万円をかけている
- 水利用、漁業、環境、防災の関係が錯綜しているため、川から海までの一括管理が重要.

2006/5/7

1998.8神奈川新聞「揺れる海岸線 湘南の海は今」

9